

放課後等ディサービス事業所における自己評価結果

公表:平成 31年 1月 31日

事業所名 スポーツとまなびのひろばSAIYO池田校

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	現状評価(実施情報・工夫点等)と改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	0	定員に応じたスペースは確保出来ている。遊びの際には机などを移動させたり安全面に考慮し、現状を維持していく。
	2	職員の配置数は適切である	2	1	1	保育士や元教員など保育や教育の経験をもつスタッフを配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2	0	バリアフリー化されている。必要であればエレベーターの利用も可能。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	2	1	全員集まってミーティング行っている。継続して行う。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	0	3	1	現在準備中。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	0	現在準備中。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	0	外部評価は現時点では行っていないが、必要に応じて行っていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	0	月一回事業所内の勉強会、事業所外の研修や講習会に参加している。職員の資質向上のため継続して行う。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成している	4	0	0	ikedasを使用しアセスメントを行い、子どもと保護者のニーズや課題を分析した上で計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	0	ikedasを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	3	0	特に土曜日のイベントの計画は全体で話し合っている。全体ミーティングで継続して行う。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1	0	療育内容が重ならないように記録を見ながら検討し、新しい課題も取り入れている。今後も変化を持たせて、楽しみながら療育、活動できるようにしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	0	ご家族から相談があった場合はできるだけ対応ができるよう体制をとっている。今後も対応できることはしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等ディサービス計画を作成している	4	0	0	主に集団での活動になるが、子どもの状況やご家族のニーズを取り入れながら計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをして、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	2	0	打ち合わせとしての時間はとっていないが、支援開始前にその日の流れや役割の確認の話をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをして、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	3	0	その日の活動を記録し、ファイリングしている。その都度、気づいたことを職員間でしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	0	日々の記録を残しており、問題や課題については話し合いを行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等ディサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	2	0	障害福祉サービス事業所への移行者がいないため実施していない。移行する場合は情報提供をしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	2	2	0	集団療育が基本であるが、土曜日のイベントでの活動を通して余暇活動につながる活動を行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	3	0	依頼があれば参加している。今後も依頼があれば参加していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	1	1	子どもの下校時間など電話や送迎時にその都度確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2	1	該当児童の受け入れなし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	1	1	児童発達支援事業所から移行した子がいなかつたため実施していない。移行してくる子がいれば情報提供など実施していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	2	1	障害福祉サービス事業所への移行者がいないため実施していない。移行する場合は情報提供をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	1	専門機関での研修はスタッフが参加出来るようにしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	1	3	土曜日のイベントで児童館のイベントなどに参加している。保護者の要望があれば交流を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	2	2	子どもの自立協議会はないので参加していない。立ち上げられたら積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	1	0	送迎時や連絡帳でやり取りをしている。要望に応じて面談などの時間を取っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1	1	ペアレントプログラムを実施した。今後も継続して行っていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0	契約時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	連絡帳などで相談があった場合は、送迎時や電話で話をしている。今後も相談があった場合はその都度対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	1	1	父母会、保護者会はないが、療育参観で保護者の繋がりを持つ場を提供している。要望があれば機会を提供していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	現在苦情はないが、あった場合はスタッフで情報を共有し早急に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0	月1回まなびっこ通信を発行し、ブログにも活動の様子を載せている。今後も情報発信を行っていく。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0	子どもの個人情報に関する同意書を保護者から頂き、社外には持ち出さないようにしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1	0	その日あったことは送迎時や電話で連絡している。子どもの状況に応じて意思を汲み取りやすい方法でやり取りをしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	3	実施していない。何らかの方法を考え、地域の方との交流が持てるようにしていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	2	1	マニュアルを作成し、職員に周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	0	2	年間2回避難訓練を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	0	外部の研修に参加したり、事業所内での研修で周知している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	4	0	必要とする子がいないため行っていない。必要が生じた場合は説明し了解を得た上で、計画書に記載をし行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1	1	ご家族から頂いた情報をもとに対応している。必要があれば指示書を頂き対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1	0	事例集作成はしていないが、書面とミーティングで共有している。今後も継続して行う。